

地域の中で共に生きる大田原市を目指して

大田原市長 千保 一夫



明けまして
おめでとーございませう

今年がより良い年でありませう
お祈り申し上げます。

昨年はその前年の米国リーマン・ブラザーズの破綻に端を発した景気の大減退に見舞われましたが、国民は政権を交代させることによって国民生活を救済してくれ、劇的な効果を期待しています。新政権が財政緊縮を急激に押し進めると国全体の活力が失われてしまふのではないかと、との専門家の声も多く、従って新政権も選挙時のマニフェストを軌道修正しつつ現実路線を歩み始めたように見えます。いつの世も明日に希望がもてるのであれば、今日、どんなに辛くとも我慢ができるものです。私たちがおとなが希望をもつてた

くましく生きていく姿を次の世代にしっかりと見せつけておいてこそ、次の世代も希望の中で明日を生きようとするでしょう。

物が豊かになれば幸せになれると考えた戦後六十年。生活水準は比較にならないほど改善されましたが、豊かさを達成して今なお、私たちは幸福を手に入れていないばかりか、豊かな生活と引き替えに、心は貧しくなり、大切なものを失ってしまったと振り返っている人々がいかに多いことか、そして政治がその時代の国民を写す鏡であるとするならば、今、私たちが目指すべき政治目標は、心の豊かさの復活と低コスト高満足度社会の実現ということになります。まず地域主権に向けて急速に流れが加速しており、国が一步退けば県が元気になる。県が二歩退けば市町村が元気になる。市町村が元気になるれば国民が幸せになれる。という国民の共通認識が生まれ、常識化されつつあるとき、市と市民の協働によって地に足を着けたまちづくりを進めることによつてこそ市民が幸せになれると、あら

ためて気付いて戴けると思っています。即ち、生活の豊かさを求めて一人ひとりがそれぞれの方向を向いて生きてきたことの反省に立ち、これからは皆で足下を見つめ、共に手を携え、地域社会の中で支え合いながら共に生きてゆくという、昔の日本社会では当たりまえだった「地域の中で共に生きる」ということが、今、失つて初めて如何に心の満足と幸せな人生を保証してくれるものであったかということに思いを致さねばなりません。

人は一人では生きていけない、ということばは誰でも知っている筈なのに、現実は大勢の人が身のまわりにいてくれても、それぞれが心の中では孤独さに押しつぶされそうになっています。

今年は何でもかきかきながら、手を差しのべ合いながら、励ましあいながら地域の中で共に生きてゆく社会の再生を図つてゆく元年にしたいと思えます。市民の皆さまの幸せをお祈り致します。

【市長の新春インタビュー放送】

市長の新春インタビューがテレビで放送されます。放送予定日は次のとおりですので、ぜひご覧ください。

とちぎテレビ

番組名 「2010年わが街発!」
本放送日 平成22年1月1日(金) 17:30~18:00
再放送日 平成22年1月3日(日) 9:00~9:30

上記時間帯の中で、約10分間放送されます。

■問い合わせ 秘書課広報広聴係 TEL 23-8700